

三鷹市立東台小学校 令和5年度【図画工作科】授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が活動のめあてやきまりをしっかりと理解できるような指導の工夫が少ない。 ○多様な考えに触れる支援が足りない。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態に合わせ、2時間中に達成するめあて、授業展開を明確にした授業計画を立てる。 ◎活動の途中で、形や色、触った感じなど造形的な視点を明確にして、鑑賞する機会を毎時間もつ。 ◎友達の発表を聞いて、自分の言葉で理解、表現させる。 発表…友達の作品から受け取ったことを自分の作品で生かしたい点などを考え、表現させる。 補充…造形的視点を示し、友達の作品のよさを表現させる。 ○物の扱いについて写真や図を用い視覚的に捉えられるように指導する。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○消防写真生会では、消防車の前に消防士の動きをよく見て黄土色のクレヨンで下書きをして、丁寧にしっかりと色塗りをして仕上げる事ができた。 ○色鉛筆でも、枠からはみ出さず濃くきれいに塗る習慣が身についた。 ○色画用紙を丸めたり、鉛筆で描いた形をきれいに切ったりすることができるようになってきた。 ○折り紙を折って重ねた部分に鉛筆で模様を描き、はさみで切ることを繰り返すことで、切り抜き模様を作る事ができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同じテーマの平面作品では、どんな風に描けばいいか考えられず、取り組みない児童に対する指導に時間がかかり、同じ時間内にすすめることが難しかった。 ○意欲的に取り組むことはできるが、集中が続かない児童もいた。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題をどういう風に表示すれば、描き表せばいいか悩んで手が付けられない児童がおり、声掛けなどの支援が必要である。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎描けない児童には、会話をしながらイメージを膨らませて意欲をもたせられるようにする。 ○活動している途中で机間指導をして、肯定的に声をかけるようにする。
第2学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童が、本時の活動のめあてや流れをしっかりと理解できるような指導の工夫が少ない。 ○多様な考えに触れる鑑賞の時間が確保できない。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の実態に合わせ、2時間中に達成するめあて、授業展開を明確にした授業計画を立てる。板書や指示を行い、流れが分かるように指導する。 ◎作品鑑賞の時間を確保する。作品を見合ったりしながら様々な考えを知り、表し方や技能を自分の作品に生かせるように指導する。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTや現物を見せながら、単元のゴールや流れを事前に説明することで、見通しをもって活動に取り組むことができています。 ○豊富な材料や色などの選択肢を設けることで、豊かな考えや思いを表現しやすくなることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童によって制作時間に大きな差がある。 ○思ったように表現ができず、自信をなくしてしまう児童がいる。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時間設定の工夫や1時間、または2時間続きの目標を児童の実態に応じて達成しやすいものにする必要がある。 ○自分の思いや作りたいものを表現できるように、さまざまな表現方法を提案・指導する必要がある。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎時間と活動内容が見合っているかどうか学年で相談し、ねらいを絞って児童がそれぞれの時間で目標を達成できるような活動を行う。 ○手先や指先の使い方、力の入れ方、道具の使い方など、さまざまな方法を提案し個別でも指導するなど、それぞれの児童に合った表現方法を見つけられるようにする。
第3学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業規律の徹底ができない場合がある。 ○一人ひとりが課題を見付けたり、考える時間の確保、指導の時間が十分でない。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎制作時間と話を聞く時間のメリハリを付け、話を聞く姿勢や鑑賞態度を身に付ける。(聞く姿勢…作業を止める、前を向くなど) ○意欲的に活動に取り組めるように、児童に合った声掛けを意識し、表現力が豊かな作品や技能を工夫している作品を称賞し褒め、広げる。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な題材に対して関心をもち、楽しみながら造形活動することができた。 ○全体指導では、活動内容が理解できず個別支援が必要な児童が一部いた。 ○失敗することを恐れ、自分で考え行動することができない場合がある。 ◎タブレットでの振り返りを行い、自分の思いや考えを伝えることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発想力が乏しかったり、自信の無さから参考作品や友達の作品などを真似する児童が一部いる。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○材料を試行錯誤できる時間が十分取れない場合がある。 ○校内展覧会の作品完成を優先したため、作品鑑賞の時間を十分に確保できなかった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○制作時間と活動内容の見直しを行い、学級や児童の実態に合わせた計画にする。 ◎制作途中で短時間でも途中鑑賞を入れ、友だちの作品のよさや表現方法の工夫を知り、自分の作品に生かせるようにする。 ○失敗してもやり直せる時間の確保や雰囲気づくりを意識し、何度も繰り返しながら自分なりの表現ができるようにする。
第4学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発想力を高める時間の確保が十分でない場合があった。 ○前学年までに学習した用具の技能を高めることが難しかった。今まで学習した用具を使い技能を高めたり、表現方法を取捨選択するような題材を設定できなかった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々な参考作品を見せたり条件を設定することで、偏ったアイデアにならないようにする。 ○今まで学んだ用具や表現方法を生かせるような題材設定を行い、技能を高められるようにする。 ◎制作途中や完成後の鑑賞時間を設け、作品の工夫点を見付け自分の作品に生かせるようにする。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○のこぎりを使用した立体作品では、昨年度の経験を生かして制作することができた。 ○新しい道具や材料にも関心をもち、主体的に制作することができた。 ○校庭での写真生会を通して、実際に触れながら活動することができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組むことはできるが、自ら考えながら作品をより良くしようとする力が足りないことがある。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作品をより良くするために、一人ひとりが課題を見付けたり、考えたりできる指導が足りない場合がある。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○材料や用具を十分に試す時間を確保する。 ◎表現の工夫ができていない児童の作品を賞賛し、全体に周知する。自らが考え表現の工夫ができるように指導する。
第5学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○活動を進めの中で発想を広げたり、深めたりする声掛けや手立てが十分ではなかった。 ○達成感が味わったり、価値付けする言葉掛けが少なかった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎制作途中で鑑賞時間を設ける。活動や鑑賞の中で発想力や表現力が豊かな児童を取り上げて賞賛し、広める。 ◎スモールステップで少しずつ作品を仕上げながら、達成感が味わえるように工夫する。児童の実態に合わせて、個別の課題を選択できるようにする。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○前年度までの経験を生かし、表したい表現や技法を自ら選択し自分の作品に取り入れることができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材に関心を示すものの、材料の特徴を十分生かして、よりよく創意工夫することができない児童が一部いる。 ○課題に対して自分の表現を探索することが難しい。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自らの考えを深め、課題解決できるような指導や声掛けが足りなかった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○途中鑑賞や作品完成後の鑑賞時間を確保し、自分の作品に愛着を感じたり、他者の作品のよさを認め合えるようにする。 ◎自分らしい発想で、試行錯誤しながら創意工夫できる題材を設定し、失敗しても安心して取り組むときの雰囲気づくりを意識する。
第6学年	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○知識・技能を高める指導時間が十分でなかった。 ○試行錯誤し、作品の完成度を高めることができる児童が少なく、そのための手立てが十分でなかった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎共同制作や作品鑑賞などを通じ、児童がお互いに意見を交流する場面を設定する。グループ活動を取り入れることで多角的な視点で考え、考えを深めたり広げられるようにする。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○昨年度に比べ、活動の中で助け合い、協力しあうことができる場面が増えた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもって、計画的に作品を完成することができないことが多い。 ○自分の作品に振り返り、自分の考えや思いを文や言葉で人に伝えることができない場合が多い。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人ひとりが課題を見付けたり、考えたりできる指導の工夫が足りなかった。 ○1学期はタブレットの約束を守れず、授業内での活用ができていなかった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年に合わせた授業規律に改め、徹底する。 ◎児童の実態に合わせて、スモールステップで課題解決できるようにする。 ○タブレット使用時の約束を徹底し、必要に応じて活用できる場面を増やす。
くすの木 学級	<p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○6学年合同のため課題自体が学年にあったものが判断できない部分があった。 ○教師からのアドバイスによりさらに魅力的な作品になると思われる場合でも、児童自身が「完成した」と思っているとなかなか手を加えたりすることがあった。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎鑑賞の時間を十分に取る。 ○課題と発達段階に合わせた見本を提示し、児童が想像しやすくなる。 ○制作段階で手を加えることより良くする部分等声をかける。 ◎自分の作品の工夫を発表したり、友達の作品の良さを見付けたりする活動を通じた鑑賞を取り入れる。 	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同じ作品であっても、学年や実態に合わせて技法などを工夫して行った。 ○展覧会の平面作品では、筆に慣れる活動を取り入れた。手本を参考に意欲的に表現することができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同じテーマの平面作品では、経験差を考慮して指導時間を工夫して行ったが、難しかった。 ○意欲的に取り組むことはできるが、集中が続かないこともあった。 	<p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○いくつかの技法を活動に取り入れたが、指導時間が十分でなかった。 ○新しい学習に取り組むときに、個別に支援が必要だが、支援の手が足りない。 <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎制作途中で鑑賞時間を設け、友達の工夫しているところを見付け、自分の作品に生かせるようにする。 ○導入の仕方を工夫し、イメージが広がるようにしていく。